

巻頭言

## ITリテラシーと「間」の変様

(特非) シビル NPO 連携プラットフォーム  
常務理事 有岡 正樹



トランプ氏の相次ぐツイッターを通しての単純かつ矢継ぎ早の発言が、世界中を揺るがしている。常識では考えられないような結論的な「断」を発し、それに反論が出ると間髪おかずに次の一言をツイッターで発する。「間」というものがない。日本ではこれを「間抜け」と称し、「拙速」に通じると思うのが一般的である。常人の話ではない、仮にも世界で最も影響力のある米国大統領の話である。

例えば「TPP 交渉から脱退する！」といった、いわば一元一次方程式の解だけをまず公言する。それに対する国内外からの多数の賛否各論に対し、主として自論に異を唱える世論を未知数として、それに対応すべく方程式を検討して帰納的に解いていく（少なくとも 3 月 1 日の初の米国議会演説内容が、その意図を含んでいると信じたいが……）のだろうが、典型的な反対論に対しては「まず寸時に」これを否定する反論をもちろん忘れない。その結果として息のかかった側近による代弁やロビイングを活性化して対応していくことになるが、すべての未知数に解を与える方程式を整えることは出来ないで、自論に分の悪い多くの未知数は無視することになる。その典型が NY タイムスや CNN などには情報を公開しないという現状である。政治はビジネスではない。もう少し「間合い」を配慮してと、願っている。

さて、筆者はサービス提供部門長として、CNCP の定款にある 6 つの事業内容のうち、①活動支援、②情報公開、③広報・提言ならび④教育研修・行事の 4 つの機能を担当しているが、これらはいずれもコンピューターやインターネットはもちろん、SNS ネット通信など様々な IT リテラシーと密接な関係がある。“IoT や AI を駆使しての B to C が企業盛衰の競争力となる”といった頭字語を駆使しての会話が、30~40 歳代のデジタルネイティブ（世代）のビジネスマンには当たり前の時代なのである。

例えば意見交換会、会員だけでなく一般も対象にしてのセミナーやシンポジウム等の開催・共催とその参加者の公募、さらには CNCP 運営に関わるアンケート、会員増強と応援団としてのサポーター登録者の増員など、メールを駆使して協力を依頼することになる。もちろん 1 回のメール依頼だけでは、内容にもよるが送付先のせいぜい 10%~20%の返信率で、その後 2~3 回【確認】、【再度お願い】、【至急】などといった注意喚起の用語を付記して、一人でも、二人でもと躍起になるが、そんな準備作業だけで 1 ヶ月という歳月があっという間に過ぎてしまう。

70 歳代も半ばの我々には、まさに IT リテラシーと「間」の両立は縁遠い話で、手も足も出なくなってしまっている。熟慮といえは聞こえは良いが、DNA 的に結論をついつい先送りしてしまう「間延び」の習性がこれに輪をかけ悪循環を繰り返しており、トランプ氏の「間抜け」とは両極端だが、その差は五十歩、百歩と自認している。せめて「間合い」レベルのスピードを目指して CNCP サービス提供の仕づくりに精を出し、次世代に引き継げればと願っている。下表ではそのためにやるべきことを思いつくままに取りまとめた。個々人の IT リテラシーと「間」のバランスは様々だろうが、何かの参考になれば幸いである。

呼称	受入れ対象数と賛意表明率		対応要因			対応・検討のプロセス		
	対象人数 (オーダー)	なびく人数 (比率)	対応努力 (時間と労力)	対応者	結果への対応	数学的事象	IT化的要因	寄席に例えて
間抜け	10 <sup>3~4</sup> 人	1%~10%	ほど寸時 思い付き的	上位者 (独善的)	帰納的・リスク大 リトマス試験紙的	微分 一元一次方程式	SNS等ネット駆使 (先手必勝)	掛け合い漫才 (けなし合い)
間延び	10 <sup>1~2</sup> 人	20%~90%	熟考~考え過ぎ (独りよがり?)	空転会議 孤高的思考	演繹的・リスク小 存在感と達成感	積分 多元・高次連立方程式	文書化情報 事例調査手段	冗長な落語 (落ちが重要)
間合い	10 <sup>2~3</sup> 人	50%	臨機応変 (相手と味方双方)	合意形成 (せめて70:30)	選択肢と優先順位 Reasonable & Fair	パレート分析 未知数・方程式絞込	QA・VE分析 (IT解析手法)	抑揚豊かな講談